

2010年度

科目名	心理学実験A		
担当教員	中尾 将大		
配当	人社2	コード	42420
開期	前期	講時	木曜日2限
		単位数	1
授業テーマ	実験を通じて科学的なものの見方を身につける。		
目的と概要	心理学の基礎実験を通じて、実験の方法、実施、データのまとめ方、処理方法を学ぶ。ヒトの精神活動を科学的に捉え、データからわかることを客観的に記述する術を身につける。教科書に載っているような行動の変容が実際に見られるのか。受講者自身の眼で確かめて欲しい。		
成績評価法	平常点(20%)および各課題について提出するレポート、授業に対する姿勢(80%)など、総合的に評価します。		
テキスト	内容に合わせてプリントを配布します。		
参考書	心理実験指導研究会(編)実験とテスト=心理学の基礎(実習編)および実験とテスト=心理学の基礎(解説編)		
履修に当たっての注意・助言	実習科目はグループで実習を行いますので、よほどの理由でない限り遅刻と欠席を認めません。あまりに遅刻と欠席が多いと単位を認めないことがあります。		
講義計画			
<p>1. 3,4名をひとつの班とする。班ごとに各実験課題に取り組み、各自でレポートを提出し、結果を発表する。</p> <p>2. 1つの実験課題は、3週間に1つの割合で実験を行い、レポートを作成し、提出する(4週目)する。</p> <p>1週目 実験の概要と背景の説明、実験上の注意点説明、仲間内での練習試行など</p> <p>2週目 実験データの収集、集計・分析方法の指導</p> <p>3週目 結果分析、レポートへのまとめの指導</p> <p>4週目 次の実験の概要説明、実験上の注意点説明、仲間内での練習試行など (同時に、各自が作成した前回実験のレポートを提出する)</p> <p>3. 各実験課題は以下のとおりである。</p> <p>(1) ミューラーリアの錯視 ミューラーリアの錯視図を用い、調整法によって錯視量を測定する。 さらに錯視を規定する要因を考察する。</p> <p>(2) 触2点閾 ①極限法を適用し、体のいくつかの部位での触2点閾を測定する。 ②閾値の変動について、信号検出理論を考える。</p> <p>(3) 重さの弁別閾 恒常性によって重さの弁別閾を測定する。恒常性の手続きと「閾」の定義を理解する。</p> <p>(4) 知覚運動学習 鏡映描写器を用いた、鏡映描写学習(視覚情報と運動との協応)から知覚運動学習の有無を確認する。</p> <p>[受講の条件]</p> <p>1回生配当の「統計学AおよびB」また「心理学研究法」を履修済みであること。もしくはこれらの科目を同時に受講していること。[人数制限] 実験器具の数に限りがあるため、受講定員を40名とします。心理・カウンセリングコースの学生を優先し、人数に余裕があれば、他のコースの学生も受け入れます。希望者が定員を超える場合は、抽選します。受講希望者は、第1回目の授業に必ず出てください。その場で抽選します。一回目の授業を連絡なく欠席した場合は、後で希望しても履修登録は出来ません。</p>			